

❖「絆～私の生き方を考える実行委員会～」活動❖

❖エンディングノート「わたしの生きかたノート」勉強会がスタート！
できることからやっつけていこう！

9月15日、四條畷市民総合センター会議室4で、「わたしの生きかたノート」勉強会がスタートしました。少人数制にして、換気や参加者の体調チェック、手指消毒の徹底を基本に、感染防止対策を行い始めました。

第1回目は、プロローグとしてカードゲーム「もしばなゲーム」を通して自分の死生観と向き合い、グループワークで話し合いました。2回目以降は、第1回目に話し合ったことを起点に、毎回テーマを作りミニ講座をして「自身の生き方」を考えていきます。第2回目は「健康」、3回目は「在宅看護・看取り」4回目は「介護」についてです。

この勉強会を通して、皆さんに自分の生き方を考えるきっかけにさせていただけると幸いです。



❖認知症地域支援推進員 近況報告です❖

今年度から認知症地域支援推進員になりました田伐です。前任者同様頑張りますので、よろしくをお願いします。

今や認知症は特別な病気ではなく、身近な病気として捉えられるようになってきています。認知症は誰もがなる可能性があり、早く気づいて進行を遅らせ、認知症に向き合うための準備を整えていきたいと考えています。

早期に医療や介護につながるケースを増やし重度になる人を減らすために、四條畷市では在宅医療と介護の連携をもとに、認知症ケアワーキンググループが活動しています。メンバーは、医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、社会福祉士、主任介護支援専門員、サービス事業所管理者等多職種で構成され、月1回会議を行っています。認知症の早期発見・早期対応の重要性を市民や地域に啓発していくとともに、医療・介護の専門職が受け身ではなく、積極的に気づいて関係機関につないでいくことを目的にリーフレットを作成中です。活動の一環としてお伺いした際には、ぜひご感想をお聞かせください。

(くすのき広域連合四條畷支所 認知症地域支援推進員 田伐)

❖編集後記❖

コロナ禍により今までの日常が非日常となり、「新しい生活様式」なる言葉も生まれました。そんな中でも地域の皆さんが、今できることに向かって一生懸命活動されています。新型コロナウイルス感染症の拡大でいったん途切れた絆がまた、結ばれようとしています。

がんばれ、四條畷！コロナに負けるな！

(第1層生活支援コーディネーター 橋本)



発行 社会福祉法人四條畷市社会福祉協議会
〒575-0043 四條畷市北出町3番1号
☎ 072-878-1210

監修 くすのき広域連合四條畷支所
(四條畷市役所高齢福祉課内)
〒575-8501 四條畷市中野本町1番1号
☎ 072-863-6600

❖「令和2年度四條畷市域生活支援サービス協議体」活動報告❖

❖「市民啓発・居場所づくり」ワーキンググループの取り組み
～「大阪ええまちプロジェクト1 DAY チャレンジ」～

「住民目線で企画する！四條畷市内の高齢者に向けたオンラインでの情報取得講座を考えよう」ということで、大阪ええまちプロジェクトの支援（1 DAY チャレンジ）を受けました。

この支援は、多様な主体の参加を通じた街づくりを推進していくために、プロボノワーカー（仕事で培った経験やスキルを活かして社会貢献活動をする人のこと）と一緒に地域課題の解決の糸口を作り、新たな地域の活動や地域の力を引き出していくものです。

今回のチャレンジは、新型コロナウイルス感染症により、地域の高齢者にとって、人や地域とのつながりが途絶えがちになり、情報の取得もできにくくなったことがきっかけです。

11月7日の午後、市役所のミーティングルームで5名のプロボノワーカーさんと一緒に課題解決に向けたディスカッションをしました。プロボノワーカーさんから「高齢者にスマホの魅力を伝えるためには」「高齢者がICTを使えないとこれからどうなるか」についての資料をいただき、支援は終了しました。

今後は、プロボノワーカーさんが作成してくださった資料を活用して、私たちが、講座企画を進めていきます。



❖「移動・外出支援」ワーキンググループの取り組み

～地域の中の移動・外出についての困りごとを考える～

このワーキングでは、高齢者の「移動」や「外出」についての課題を話し合ってきました。地域によって高齢者の「移動・外出」に関する困りごとはさまざまです。「移動・外出」の目的も買い物や通院などいろいろあります。また、地域の中には「仲間同士の助け合い」や工夫などお宝が眠っていると思います。地域の身近な課題を取り上げ、住民の皆さんと一緒に考え話し合う機会を少しずつ作っていききたいなと思っています。

❖なわてのええまち、ええ人紹介❖

～人と繋がる、想いを繋げる～ 福永エミ子さんの活動から

四條畷学園大学看護学部2年生では、コロナ禍の看護実習のカリキュラムの一つとして、地域住民の取り組み紹介をされました。「在宅看護学」の原田先生から依頼を受け地域住民の福永さんが、「新町交流ひろば」や「おもちゃライブラリー」の活動から見えてくる福永さんの思いを、80名の学生さんたちにお話しされました。

学生さんたちが福永さんのお孫さんと同年代ということもあり、孫に対して接するように包み込むような笑顔と優しい口調が印象的でした。飾らない語り口で活動のきっかけやこれからのことをお話しされ、学生さんも興味深く聞いていました。

質問コーナーでは、学生さんから「なぜボランティアをしてみよう」「なぜこのような活動をしてみよう」と思ったのですか？という質問に、「私の子どもにとって四條畷はふるさとです！いい町であってほしい！」と続けてきました。そして仲間がいたから楽しい活動を続けてこれたのです。活動を通して地域の人が繋がることは、災害時に大きな力を発揮することを学びました」と、学生さんたちに訴えました。

講演会終了後、学生さんたちがメッセージを書いてくださいました。四條畷市在住の学生さんからは、「私の故郷が四條畷で良かった」と、福永さんの活動の原点となる言葉をいただきました。また、「地域の活動があることによって交流の場が広がり、『助け合い』の関係が築かれる」「住民自らの活動が始まりで大きな地域交流となって自然と『助け合いの関係』が築かれ、日々の交流の重要性を感じた」というメッセージもありました。

今、私たちが目指そうとしていることに若い人たちの気づきがあり、このような場を作っていた原田先生に感謝申し上げるとともに、福永さんの思いがこの日、若い人たちにしっかりと継承されたことに感動を覚えます。

(第1層生活支援コーディネーター 橋本)



福永さん講演の様子



四條畷学園大看護学部学生さんの心温まるメッセージ

学生さんのメッセージをご覧になりたい方は、第1層生活支援コーディネーター橋本（四條畷市社会福祉協議会 ☎072-878-1210）までお問合せください。

～住み慣れた地域で自分らしくいつまでも過ごせるよう～

あなたが主役！みんなが主役！黒澤典子さんの未来予想図

「皆さんが主役！新聞 第2号」ができました。この新聞は、地域の方々の声を聴き、人と人の繋がりがもてるきっかけ作りお手伝いと思って田原地域で発刊し、今回第2号になります。

今回の主役の黒澤さんの地域では、「緑美会」を立ち上げ、踊りや体操、カラオケなどを開催し、自分たちで知恵を出し合い、元気に毎日を送っておられます。どなたも最後まで住み慣れた地域で生活したいという思いを持っておられます。もちろん黒澤さんの思い描く未来予想図は、住み慣れた地域でなじみの人といつまでも元気で楽しく生活している構図です。これからも生活支援コーディネーターとして、その想いがかなえられるようお手伝いしていきます。



(第2層生活支援コーディネーター 森口)

～コロナに負けないボランティア活動！！～



四條畷荘では、以前から華道、絵手紙、いきいき歌体操、盆踊り、ギター、オカリナ、民舞民謡、傾聴、買い物ツアー等、たくさんのボランティアグループさんが来てくださっています。今回は、コロナ禍で直接利用者さんと会えない中、進化した活動方法をご紹介します。

絵手紙では、ボランティアさんから届いた絵手紙に感動した利用者さんが、絵手紙で返事を書くという交流が生まれました。ボランティアさんも利用者さんが喜ばれる様子の写真を見たり様子を施設職員から伺うことで、元気をもらっているそうです。また、華道では、施設1階と入居スペースをリモート（テレビ電話のような仕組み）で繋いで、お花や生け方を説明しながら、画面内での会話を楽しみました。生けた花は利用者さんのもとへと届けられ、利用者の皆さんが大変喜ばれました。音楽や体操、踊りでは、ビデオ撮影した映像を視聴。ビデオを見ながら体操をしたり、歌を歌ったりと皆さん喜んでいきます。

皆さんの地域にも、コロナ禍でもできることがまだ眠っているのではないのでしょうか？

(第2層生活支援コーディネーター 吉井)

～コロナ禍でも繋がりがづくりを少しずつ～

府宮清滝住宅地区福祉委員会では、コロナ禍でも感染予防対策を行いながら住民が集える場の継続を検討しています。

普段から、住民の安否確認に意識を持ち、繋がりを絶たないように「自分たちができること」は何かを真剣に意見交換している様子にとっても感動しました。地区福祉委員



会の活動には、住民一人一人のことを気遣う思いに原点があるのだと感じました。これからも「withコロナ」でどのように活動を継続していけるのか注目しています。

(第2層生活支援コーディネーター 高垣)